

講演者プロフィール



Center for Advanced Science and Innovation, Osaka University

VBL 部門講演会

「アントレプレナー教育の先進的拠点・米国の教育現場」



Mary M. Zoeller 氏

Technology and Business Advisor
William J. von Liebig Center
UNIVERSITY OF CALIFORNIA, SAN DIEGO

現在、先端科学イノベーションセンター・VBL部門では、カリフォルニア州立大学サンディエゴ校工学研究科 (Jacobs School of Engineering) の von Liebig Center と協力関係を結んでいます。von Liebig Center は、技術開発促進とアントレプレナーリズムの昂揚を目的として設立された研究所です。

今年度、VBL部門講演会に講師としてお招きした Mary Zoeller 氏は、この von Liebig Center 設立以来 11 年間、技術・事業両分野でのアドバイザーを務めておられ、von Liebig Center における起業環境をよくご存じの一人です。また現在も、戦略的ビジネスプラン・起業におけるコンサルタント、エンジェル投資家、そして複数の企業にて諮問委員および取締役として活躍されておられます。Zoeller 氏は、ハイテク分野における起業からアーリーステージの経営、成長企業の育成に、30 年にわたり携わってこられ、特に情報技術における最新技術に基づいた新製品開発、新市場の創出と発展を成功させた数々の実績をお持ちです。ウースター工科大学にて化学の学位、ノートルダム大学にてファイナンスと経営の修士号を取得後、ヒューレットパッカード社、および SignOn SanDiego.com. にて管理職を経験され、その後、役員として Proxima Corp., Phoenix Technologies Ltd., PRAJA inc., Jabra Inc. といった複数の企業において IPO を成功させ、買収と資金獲得に関わってこれられました。またアーリーステージの企業に対し、ビジネスプラン、資金調達、経営管理を提供する Beachhead. LLC を共同で設立し、取締役を務められました。同時に、建設業界に対するアプリケーションサービスプロバイダ Construction Bidboard の最高経営責任者 CEO も務められました。

今回は、以上のような Zoeller 氏のご経験も踏まえ、von Liebig Center における起業環境とともにアントレプレナー教育についてご講演頂きます。

CLIC オープンカリキュラム

アントレプレナーシップ ~いま、若手研究者に必要な、道を切り拓く力~

“RWTH Aachen University Campus Project & Biomedical Engineering Cluster: Research - Learning - Development - Living”



Thomas Schmitz-Rode 教授

Institute of Applied Medical Engineering
RWTH Aachen University

1982 年アーヘン工科大学にて機械工学修士、1988 年医学博士を取得。1984~86 年には Symbion 社にてデザインエンジニアとして活躍。1989 年から 14 年間アーヘン工科大学病院にて Rolf W. Gunther 教授の下、レジデント、シニアコンサルタント、チーフコンサルタントを歴任。その間 1992 年には米国オレゴン州にある Dotter Interventional Institute にてリサーチフェローを経験し、1999 年にアーヘン工科大学医学部放射線診断科の准教授に就任。2003~04 年にインターベンショナルラジオロジー分野にて教授に就任し、2005 年からは応用医工学分野で教授を務めている。さらに 2005~08 年にはアーヘン工科大学のヘルムホルツ研究所のマネージングディレクターも務めた。2000 年より現在まで、医療技術分野の産業化を推進するネットワーク機関 (Aachen Centre of Competence for Medical Technology) の代表も務めている。

“Tactics toward your goal”



小柳智義 博士 (理学)

ライフテクノロジーズジャパン株式会社
インダストリアルビジネス
ディスカバリーソリューション

大阪大学大学院理学研究科博士後期課程修了 (産業科学研究所谷澤研)。理化学研究所播磨研究所を経て、米国スタンフォード大学医学部分子薬理学科にてポスドク。循環器薬理、Protein Kinase C をターゲットとした分子標的薬の開発に携わる。この間、2003 年より米国のバイオ企業で働く日本人向け NPO、Japan Bio Community の設立に参画。シリコンバレーにおいて基礎技術の事業化や、起業が盛んな環境を目の当たりにし、バイオビジネスに目覚める。帰国後は神戸のバイオベンチャーを経て、2010 年 9 月より現職。創薬、幹細胞研究、細胞治療など幅広い製品群を取り扱い、基礎研究の実用化に向けた応用研究に貢献している。

【パネルディスカッション】

ファシリテータ: 兼松泰男 (先端科学イノベーションセンター 教授) / パネリスト: Thomas Schmitz-Rode, 小柳智義, Mary M. Zoeller